

～全国の3,500人の男女に聞く～

災害への備えと食に関する調査

食料品「備蓄しているが十分ではない」が過半数、「備蓄していない」も約4割
備蓄食料品の期限が過ぎたことが“ある”6割超、平均年「4.8品」
「ローリングストック」の考え方を“知っている”は4割強、今後“したい”は7割

I. 災害への備えに対する意識と実態

- ◆ 災害避難「場所はわかっているが行ったことはない」が半数近く（48.3%）を占める
「知らない」も4人に1人（25.6%）存在
- ◆ 防災グッズ、“準備している”（40.2%）より“準備していない”（59.8%）の方が多く
- ◆ 災害用食料品「備蓄しているが十分ではない」（55.2%）、「備蓄していない」（37.4%）
「十分備蓄している」は1割未満（7.3%）しかない
- ◆ 備蓄できない理由1位は「経済的余裕がないから」（28.4%）
- ◆ 備蓄食料品で家族全員が過ごせるのは「2～3日程度」（43.5%）が最多、平均は「5.3日」

II. 【災害用に備蓄している食料品】と【日常で食べる食料品】に関する意識と実態

- ◆ 災害用備蓄食料品の賞味（消費）期限を“把握している”が6割弱（57.1%）
“把握していない”は2割程度（22.5%）
- ◆ 備蓄食料品の賞味（消費）期限が過ぎたことが“ある”が6割超（64.9%）
- ◆ 備蓄食料品の期限切れは、1年で「5品未満」が7割（69.4%）、平均で年「4.8品」
日常食料品の期限切れでは「5品未満」は半数以下（45.9%）となり、平均で年「9.2品」
- ◆ 賞味（消費）期限が過ぎた備蓄食料品、「多少の期限切れなら食べる」（76.9%）が大多数
日常食料品の場合は、「多少の期限切れなら食べる」が8割強（82.4%）とさらに多い傾向

III. ローリングストックに対する意識と実態

- ◆ 「ローリングストック」という考え方を“知っている”のは4割強（42.0%）
「知らない」（58.0%）の方が多く、まだ世に浸透しきってはいない
- ◆ 自分は「ローリングストック」が“できている”（36.1%）、“できていない”（41.5%）
- ◆ 「ローリングストック」している食品、「レトルト食品」（70.2%）、「缶詰」（60.6%）
- ◆ 今後「ローリングストック」を“したい”という回答がほぼ7割（69.1%）
「ローリングストック」は、「食品ロスを減らすのに有効だ」“そう思う”（74.1%）、「非常食を買うより楽だ」“そう思う”（68.0%）、「知らない間に備蓄品の賞味（消費）期限を過ぎることを減らせる」“そう思う”（73.4%）、「災害時への備えに繋がる」“そう思う”（76.4%）など、有効な防災対策として評価する意見が多くみられた
一方で、「場所を取るので実践しにくい」“そう思う”（41.5%）、「何を備蓄してよいのかわからない」“そう思う”（47.1%）などの意見も少なくない

◇はじめに◇

農林中央金庫では、『世代をつなぐ食』その実態と意識（2004年）から、毎年継続して食に関する調査を実施しています。本年は近年頻発している災害に対して、日本人がどのような対策をしているか、また食料品備蓄に対し、どのように対応し、どのような意識を持っているかなどを明らかにすることを目的に調査を実施しました。調査対象は、全国の20歳以上の男女3,500人、調査期間は2024年3月18日～3月21日です。

◇調査結果まとめ◇

調査の結果、**災害時への備えは多くの人が行っているものの、いまだに十分とは言えない現状**が明らかになりました。災害時の**緊急避難場所は「場所はわかっているが行ったことはない」が半数近く（48.3%）**を占めます。「**チェックしに行ったことがある**」が4人に1人（26.1%）いる一方で、「**知らない**」も4人に1人（25.6%）いました。防災グッズを“**準備している**”（40.2%）は“**準備していない**”（59.8%）より少ないという結果でした。

災害に備えた**食料品の備蓄も、「備蓄しているが十分ではない」が過半数（55.2%）**を占め、「**備蓄していない**」も4割近く（37.4%）で、「**十分備蓄している**」は1割に満たない（7.3%）結果です。**食料品が備蓄できない理由は「経済的余裕がないから」（28.4%）が1位**となっています。備蓄食料品を「**災害時に食べたことがある**」は1割未満（6.6%）ですが、「**日常生活で食べたことがある**」は約半数（56.0%）、一方で「**食べたことはない**」が4割（40.2%）です。**自宅にある食料品で家族全員が過ごせる日数は、「2～3日程度」（43.5%）が最多で、平均は「5.3日」**でした。

備蓄食料品の**賞味（消費）期限を“把握している”は6割弱（57.1%）**で、“**把握していない”が約2割（22.5%）**です。備蓄食料品の**賞味（消費）期限が過ぎたことが“ある”が6割強（64.9%）、1年間に賞味（消費）期限が過ぎてしまった備蓄食料品は「5品未満」が7割（69.4%）**を占め、平均は年「**4.8品**」でした。これが**日常で食べる食料品では「5品未満」は半数以下（45.9%）に減り、平均は年「9.2品」と倍近くに増えます**。賞味（消費）期限が過ぎた際は「**多少の期限切れなら食べる**」が**大多数（76.9%）**を占めます。これについても**日常食料品では「多少の期限切れなら食べる」が8割強（82.4%）**に達します。

日頃から食材を多めに買って置き、その備蓄を消費しながら新鮮なものに入れ替えて更新していく「**ローリングストック**」という考え方を“**知っている**”は**4割強（42.0%）**で、現状では「**知らない**」（58.0%）の方が多くなっています。考え方を示したうえで、自分は「**ローリングストック**」が“**できている**”という人は**3割強（36.1%）**であり、“**できていない**”（41.5%）という人の方がやや多い結果でした。今後「**ローリングストック**」を“**したい**”意向は約**7割（69.1%）**に達し、社会に定着していく可能性が考えられます。「**ローリングストック**」については、【**備蓄品の食品ロスを減らすのに有効だ**】“**そう思う**”（74.1%）、【**非常食を買うより楽だ**】“**そう思う**”（68.0%）、【**知らない間に備蓄品の賞味（消費）期限を過ぎることを減らせる**】“**そう思う**”（73.4%）、【**災害時への備えに繋がる**】“**そう思う**”（76.4%）など**7割前後の肯定的な回答**が得られています。一方で、【**場所を取るので実践しにくい**】“**そう思う**”（41.5%）、【**何を備蓄してよいかわからない**】“**そう思う**”（47.1%）、など否定的回答も少なくなく、**今後の課題**と言えます。



以下は、調査内容のダイジェストです。詳細につきましては、過去の調査報告書も含め、当金庫のホームページ（<https://www.nochubank.or.jp/efforts/research.html>）に掲載の調査報告書をご参照ください。

I. 災害への備えに対する意識と実態

1. 災害が発生した際の避難場所を知っている？

- ◆ 「場所はわかっているが行ったことはない」が半数近く(48.3%)を占める
- ◆ 「チェックしに行ったことがある」(26.1%)、「知らない」(25.6%)は 4 人に 1 人程度
「知らない」の割合は若い年代ほど高く、《20 代》では 4 割近い(38.3%)

災害が発生した際の避難場所を知っているかどうかでは、「チェックしに行ったことがある」は 4 人に 1 人程度 (26.1%) しかおらず、「場所はわかっているが行ったことはない」が半数近く (48.3%) を占めています。さらに、「知らない」も少なくありませんでした (25.6%)。

「チェックしに行ったことがある」は、《女性》(22.8%) よりも《男性》(29.4%) の方が多く、「場所はわかっているが行ったことはない」では《男性》(43.1%) よりも《女性》(53.5%) の方が 10 ポイント以上高い結果でした。

年代別にみると、「チェックしに行ったことがある」の割合は年代が上がるほど高くなっています。加えて、「知らない」の割合は若い年代ほど高く、《60 歳以上》では 1 割強 (12.9%) しかいませんが、《20 代》では 4 割近く (38.3%) に達します。

2. 災害時に避難する際の防災グッズを準備している？

- ◆ “準備している”(40.2%)よりも“準備していない”(59.8%)という人の方が多い
“準備している”割合は、年代が上がるほど高い

災害時に避難する際の防災グッズを準備しているかどうかをみると、「十分準備している」という回答はごくわずか (3.0%) であり、「多少準備している」(37.2%) を合わせても、“準備している”は 4 割程度 (40.2%) です。それに対し、「あまり準備していない」は約 4 割 (38.4%)、「まったく準備していない」も 2 割を超えており (21.4%)、これらを合わせた“準備していない”がほぼ 6 割 (59.8%) に達します。

年代別では、“準備している (十分+多少)”の割合は年代が上がるほど高く、最も高い《60 歳以上》(45.8%) と最も低い《20 代》(34.3%) では、10 ポイント以上の差があります。

地域別にみると、“準備している”割合は《関東》(45.3%)、《中部》(41.4%) などが高く、《九州》(29.4%) とは 10 ポイント以上の開きが見られます。

3. 災害に備えた食料品の備蓄をしている？

どのような食料品を備蓄している？

十分備蓄できていない、または備蓄していない理由は？

- ◆ 「備蓄しているが十分ではない」が半数を超えており(55.2%)、次いで「備蓄していない」(37.4%)が多く、「十分備蓄している」は1割に満たない(7.3%)
- ◆ 備蓄している食料品の上位は「飲料水」(79.4%)、「レトルト食品」(63.4%)、「缶詰」(58.4%)など
- ◆ 備蓄できない理由1位は「経済的余裕がないから」(28.4%)
以下、「備蓄する場所がないから」(27.7%)、「何を買っていいかわからないから」(27.3%)、「備蓄品が無駄になるのが嫌だから」(23.3%)、「災害の少ない地域に住んでいるから」(13.1%)などの理由で備蓄できていない

災害に備えた食料品の備蓄については、「備蓄しているが十分ではない」が過半数(55.2%)を占めています。さらに「備蓄していない」も4割近く(37.4%)を占めており、「十分備蓄している」は1割にも達しませんでした(7.3%)。

年代別では、“備蓄している”という人は年代が上がるほど多くなり、《20代》(57.8%)と《60歳以上》(68.7%)では10ポイント以上の開きがみられます。

地域別にみると、“備蓄している”割合は最も高い《関東》(68.4%)と、最も低い《九州》(48.9%)では、ほぼ20ポイント近い差となっています。

「十分備蓄している」「備蓄しているが十分ではない」と答えた人に、どのような食料品を備蓄しているかを聞いたところ、「飲料水」(79.4%)が最も多く、以下「レトルト食品」(63.4%)、「缶詰」(58.4%)、「賞味(消費)期限の長い災害用の非常食」(49.3%)、「主食(ごはんやパンなど)」(44.1%)、「菓子類」(38.4%)などでした。

性別では、総じて《女性》の方が高い割合となっており、特に「菓子類」(男性31.3%、女性45.3%)では差が大きくなっています。ただし、“備蓄している”割合は《女性》(63.1%)、《男性》(62.0%)と大きな開きはありませんでした。

「備蓄していない」「備蓄しているが十分ではない」と回答した人の理由をみると、「経済的余裕がないから」(28.4%)、「備蓄する場所がないから」(27.7%)、「何を買っていいかわからないから」(27.3%)、「備蓄品が無駄になるのが嫌だから」(23.3%)、「災害の少ない地域に住んでいるから」(13.1%)などとなっています。

年代別にみると、「何を買っていいかわからないから」は若いほど多いのに対し、「備蓄品が無駄になるのが嫌だから」「災害の少ない地域に住んでいるから」などは年代が上がるほど増える傾向がみられます。

4. 災害用に備蓄していた食料品を食べたことはある？

- ◆ 「災害時に食べたことがある」(6.6%)に加え、「日常生活で食べたことがある」が過半数(56.0%)であるものの、「食べたことはない」も4割(40.2%)

災害用の備蓄食料品を食べたことがあるかどうかでは、「災害時に食べたことがある」は1割以下(6.6%)であるものの、「日常生活で食べたことがある」という人が過半数(56.0%)を占めます。それに対し、「食べたことはない」も4割程度(40.2%)います。

年代別にみると、年代が上がるほど「日常生活で食べたことがある」が多くなるのに対し、若い年代ほど「食べたことはない」が増える傾向です。

5. 自宅内にある食料品で、家族全員が何日くらい過ごせると思う？

- ◆ 「2～3日程度」(43.5%)が最も多く、以下「4～5日程度」(20.8%)、「1週間程度」(19.0%)などの順で、平均は「5.3日」

自宅内にある食料品で、家族全員が何日くらい過ごせると思うかをみると、「2～3日程度」が約4割(43.5%)、次いで「4～5日程度」(20.8%)、「1週間程度」(19.0%)もそれぞれ2割前後いて、平均は「5.3日」でした。

年代別にみると、「60歳以上」は平均「6.1日」で、他の年代に比べて1日ほど多くなっています。

6. 普段、食事を残すことはある？

◆ “残すことがある”は 2 割程度(20.6%)、「残すことはない」が大多数(79.4%)

普段、食事を残すことはあるかどうかをみると、「いつも残す」はほとんどおらず(0.8%)、「ときどき残す」(19.8%)を合わせても、“残すことがある”の割合は約 2 割(20.6%)で、「残すことはない」(79.4%)が圧倒的多数を占めています。

7. 食事を残すことについて、どう感じている？

◆ 「もったいない」(85.5%)、「作ってくれた人に悪い」(46.5%)と、残すことについて“罪悪感がある”意見が多い

「食べきれないときは仕方がない」(25.8%)、「健康上の理由で食事制限があるときは仕方がない」(19.8%)など、“やむを得ない”という意見も少なくない

食事を残すことについては、「もったいない」が 8 割以上(85.5%)を占め、突出して多くなっています。次いで、「作ってくれた人に悪い」も半数近く(46.5%)であり、残すことについて“罪悪感がある”意見が多くなっています。しかし、「食べきれないときは仕方がない」(25.8%)、「健康上の理由で食事制限があるときは仕方がない」(19.8%)、「嫌いなものときは仕方がない」(11.2%)、「アレルギーがあるので仕方がない」(10.4%)など、“やむを得ない”という意見も少なくありません。

8. 災害用の非常食についての考えは？

- ◆ 【1】日常食べる食料品に比べて、味は遜色ない水準だ】は“そう思う”(40.2%)
- ◆ 【2】日常食べる食料品に比べて、価格は手ごろなものが多い】については、“そう思う”(23.3%)よりも“そう思わない”(46.8%)の方がはるかに多い
- ◆ 【3】日常食べる食料品に比べて、1商品あたりの量がちょうどいい】については“そう思う”(29.8%)と“そう思わない”(26.1%)がほぼ同数
- ◆ 【4】日常食べる食料品に比べて、かさばらず持ち運びしやすい】は“そう思う”が半数近く(49.5%)

災害用の非常食についての考えを、【1】日常食べる食料品に比べて、味は遜色ない水準だ】、【2】日常食べる食料品に比べて、価格は手ごろなものが多い】、【3】日常食べる食料品に比べて、1商品あたりの量がちょうどいい】、【4】日常食べる食料品に比べて、かさばらず持ち運びしやすい】の4項目ごとに聞いてみたところ、いずれも「とてもそう思う」は1割以下とあまり多くありません。

「ややそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が最も高いのは、【4】日常食べる食料品に比べて、かさばらず持ち運びしやすい】で、半数近く(49.5%)に達しています。それに対し、「あまりそう思わない」(11.0%)、「まったくそう思わない」(1.8%)を合わせた“そう思わない”は1割強(12.8%)と少数にとどまっています。

【1】日常食べる食料品に比べて、味は遜色ない水準だ】も、“そう思う”(40.2%)が“そう思わない”(21.6%)を大きく上回っています。

【3】日常食べる食料品に比べて、1商品あたりの量がちょうどいい】については“そう思う”(29.8%)と“そう思わない”(26.1%)がほぼ同数となっています。

【2】日常食べる食料品に比べて、価格は手ごろなものが多い】については、“そう思う”(23.3%)に対し、“そう思わない”(46.8%)の方が倍以上多くなっています。

まとめると、携帯性(持ち運びしやすさ)や味に関しては及第点と言えるものの、適量については人によって意見が割れており、価格は高い(手ごろではない)と感じている人が多くなっています。

Ⅱ.【災害用に備蓄している食料品】と【日常で食べる食料品】に関する意識と実態

1. 災害用に備蓄している食料品や日常で食べる食料品の賞味(消費)期限 1)災害用に備蓄している食料品の賞味(消費)期限を把握している？

- ◆ “把握している”が6割弱(57.1%)、“把握していない”は2割程度(22.5%)
年代別では、“把握している”は《20代》(50.6%)、《30代》(53.8%)、《40代》(52.7%)が約5割、《50代》(62.6%)、《60歳以上》(62.0%)では約6割と、10ポイント前後の差がみられる

災害用に備蓄している食料品や日常で食べる食料品の賞味(消費)期限を把握しているか、【1】災害用に備蓄している食料品】と【2】日常で食べる食料品】に分けて聞きました。

【1】災害用に備蓄している食料品】について、賞味(消費)期限を「すべて把握している」は1割に満たない(7.4%)ものの、「大体把握している」は半数近く(49.7%)にのぼり、合わせた“把握している”は6割近く(57.1%)います。

対して、「あまり把握していない」(18.8%)、「まったく把握していない」(3.7%)などの“把握していない”は2割程度(22.5%)と少なく、多くの人は賞味(消費)期限を把握していることがわかります。

年代別にみると、“把握している(すべて+大体)”の割合は、《20代》(50.6%)、《30代》(53.8%)、《40代》(52.7%)では5割程度ですが、《50代》(62.6%)、《60歳以上》(62.0%)では6割強と10ポイント程度高めになっています。

2)日常で食べる食料品の賞味(消費)期限を把握している？

- ◆ “把握している”が6割強(64.1%)、“把握していない”は2割を下回る(17.4%)
“把握している”は《男性》(59.5%)と《女性》(68.8%)で10ポイント近い差

【2】日常で食べる食料品】の賞味(消費)期限については、「すべて把握している」は1割弱(9.3%)ですが、「大体把握している」は過半数(54.8%)で、合わせた“把握している”の割合は6割を大きく超えています(64.1%)。それに対し、「あまり把握していない」(12.3%)、「まったく把握していない」(5.1%)を合わせた“把握していない”は2割弱(17.4%)です。

性別では、“把握している(すべて+大体)”の割合は、《男性》(59.5%)よりも《女性》(68.8%)の方が10ポイント近く高くなっています。

2. 食料品の賞味(消費)期限が過ぎたことはある？

1) 災害用に備蓄している食料品の賞味(消費)期限が過ぎたことはある？

◆ 災害用の備蓄食料品の賞味(消費)期限が過ぎること、“ある”が6割超(64.9%)

災害用に備蓄している食料品の賞味(消費)期限が過ぎることが「よくある」(15.5%)はあまり多くありませんが、「たまにある」(49.3%)を合わせると、“ある”の割合は6割を大きく超えています(64.9%)。

2) 日常で食べる食料品の賞味(消費)期限が過ぎたことはある？

◆ “ある”の割合は6割台(66.1%)

【2】日常で食べる食料品の賞味(消費)期限が過ぎることも、「よくある」(14.0%)、「たまにある」(52.1%)を合わせた“ある”の割合は6割超(66.1%)です。前項の【1】災害用に備蓄している食料品の結果(64.9%)とあまり変わりません。

3. 1年間でどのくらい、賞味(消費)期限が過ぎてしまった食料品がある？

1) 災害用に備蓄している食料品で賞味(消費)期限が過ぎてしまったもの

◆ 「5品未満」が7割(69.4%)、次いで「5～10品未満」(21.6%)、平均は年「4.8品」

1年間でどのくらい賞味(消費)期限が過ぎてしまった食料品があるかを聞きました。

【1】災害用に備蓄している食料品については、「5品未満」が7割近く(69.4%)と圧倒的に多く、次いで「5～10品未満」が2割程度(21.6%)でした。平均は年に「4.8品」です。

2) 日常で食べる食料品で、賞味(消費)期限が過ぎてしまったもの

◆ 「5品未満」が半数以下(45.9%)、「5～10品未満」(25.9%)、平均は年「9.2品」

【2】日常で食べる食料品については、1年間で賞味(消費)期限が過ぎてしまった食料品は「5品未満」(45.9%)が最も多いものの、【1】災害用に備蓄している食料品(69.4%)と比べると20ポイント以上低くなっています。それに対し、「5～10品未満」(25.9%)などが増えており、平均すると「9.2品」となって、【1】災害用に備蓄している食料品(4.8品)の2倍近い食料品が賞味(消費)期限を過ぎてしまっています。

4. 賞味(消費)期限が過ぎた食料品は主にどうする？

1) 災害用に備蓄している食料品で賞味(消費)期限が過ぎたものはどうする？

◆ 「多少の期限切れなら食べる」が大多数(76.9%)

「大幅に期限が切れても食べる」が2割弱(18.1%)、「廃棄する」は少数派(5.0%)

賞味(消費)期限が過ぎた【1】災害用に備蓄している食料品】は、「多少の期限切れなら食べる」が7割強(76.9%)であり、次いで「大幅に期限が切れても食べる」(18.1%)が続き、「廃棄する」という人はごくわずか(5.0%)です。

性別にみると、「多少の期限切れなら食べる」とする割合は《男性》(74.2%)よりも《女性》(79.7%)の方が多いものの、「大幅に期限が切れても食べる」は逆に《女性》(16.5%)よりも《男性》(19.7%)の方がやや多くなっています。

年代別にみると、《30代》で「多少の期限切れなら食べる」(84.3%)が最も多く、「大幅に期限が切れても食べる」(10.7%)が一番少なくなっています。

2) 日常で食べる食料品で賞味(消費)期限が過ぎたものはどうする？

◆ 「多少の期限切れなら食べる」が8割強(82.4%)、災害用よりさらに多い傾向

「大幅に期限が切れても食べる」(12.1%)は、災害用よりもやや少なめ

【2】日常で食べる食料品】では、賞味(消費)期限が過ぎたものは「多少の期限切れなら食べる」が8割を超えます(82.4%)。次いで「大幅に期限が切れても食べる」が1割強(12.1%)ですが、これは【1】災害用に備蓄している食料品】(18.1%)よりも減っています。また、「廃棄する」はやはりごくわずか(5.4%)で、【1】災害用に備蓄している食料品】(5.0%)と割合的には同じくらいです。

Ⅲ. ローリングストックに対する意識と実態

1. 「ローリングストック」という考え方を知っている？

- ◆ “知っている”のは4割強(42.0%)で、「知らない」(58.0%)の方が多い
「内容を知っている」(24.7%)、「言葉を聞いたことはある」(17.3%)

「ローリングストック」とは、普段から少し多めに食材品を買い置きし、賞味（消費）期限が近いものを少しずつ消費しながら新鮮なもの、最新のものに入れ替えて更新していくことで、常に一定量の食料を家に備蓄しておくという考え方のことです。この「ローリングストック」を知っているかどうかを聞いたところ、「内容を知っている」(24.7%)、「言葉を聞いたことはある」(17.3%) がともに2割前後を占めており、合わせて“認知率”は4割強(42.0%)で、「知らない」(58.0%)という人の方がやや多くなっています。

性別の“認知率”は、《男性》(37.9%)よりも《女性》(46.1%)の方が10ポイント近く上回っています。

年代別にみると、“認知率”は《20代》では2割台(28.6%)にとどまり、他の年代の4割台に比べてかなり低くなっています。

2. 自分は「ローリングストック」ができていると思う？

- ◆ “できている”(36.1%)よりも、“できていない”(41.5%)の方がやや多い
《男性》(31.0%)よりも《女性》(41.3%)の方が“できている”と回答する人が多い

自分は「ローリングストック」ができていると思うかどうかをみると、「できている」(7.1%)、「ややできている」(29.0%)を合わせた“できている”(36.1%)よりも、「あまりできていない」(26.7%)、「まったくできていない」(14.7%)を合わせた“できていない”(41.5%)の方が少し多くなっています。

性別にみると、“できている”とする割合は、《男性》(31.0%)よりも《女性》(41.3%)の方が10ポイント以上高く、《女性》の方が“できている”と考えています。

年代別にみると、“できている”の割合は50代まではいずれも3割台であり変わりませんが、《60歳以上》だけが4割を超えています(41.3%)。

ローリングストックの認知度別にみると、“できている”の割合は《知っている+聞いたことがある(“認知者”》で半数近く(48.4%)にのぼり、《知らない》(27.3%)と答えた人より20ポイント以上高くなっています。

地域別にみると、“できている”の割合が最も高いのは《北海道》で4割を超えており(41.1%)、低い地域である《中部》(32.1%)、《中国・四国》(32.3%)、《九州》(32.9%)などとは、10ポイント近い差がついています。

3. どのような食料品を「ローリングストック」している？

- ◆ 「レトルト食品」(70.2%)が最も多く、以下「缶詰」(60.6%)、「飲料水」(58.7%)、「主食(ごはんやパンなど)」(51.5%)、「菓子類」(45.3%)、「生鮮食品」(27.4%)など年代が上がるほど増える項目が多いが、「生鮮食品」だけは若い年代ほど高い割合

どのような食料品を「ローリングストック」しているか聞いたところ、最多は「レトルト食品」(70.2%)で、以下「缶詰」(60.6%)、「飲料水」(58.7%)、「主食(ごはんやパンなど)」(51.5%)、「菓子類」(45.3%)、「生鮮食品」(27.4%)、「飲料水以外の飲み物」(23.0%)などの順となっています。

性別にみると、総じて《女性》の方が高い割合の項目が多く、「缶詰」(男性52.4%、女性66.9%)、「菓子類」(同36.8%、51.8%)では10ポイント以上の差が生じています。

年代別にみると、ほとんどの項目で年代が上がるほど高い割合となっていますが、「生鮮食品」だけは逆に若い年代ほど高い割合となっています。

ローリングストックの認知度別にみると、多くの項目で《知っている+聞いたことがある(“認知者”)》の方が高い割合ですが、「生鮮食品」は逆に《認知者》(20.9%)よりも《知らない》(35.8%)と回答した人の方がかなり高い割合です。

4. 今後、「ローリングストック」をしたいと思う？

- ◆ “したい”という回答がほぼ7割(69.1%)
“したい”は《男性》(62.4%)より《女性》(75.8%)の方が10ポイント以上多い

今後、「ローリングストック」をしたいと思うかどうかでは、「ぜひしたい」が2割台(24.1%)、「まあしたい」が4割台(45.0%)であり、合わせて“したい”という回答がほぼ7割(69.1%)に達しています。

性別にみると、“したい(ぜひ+まあ)”という割合は、《男性》(62.4%)よりも《女性》(75.8%)の方が10ポイント以上高くなっており、《女性》の方が今後の「ローリングストック」に意欲を示しています。

年代別ではあまり大きな差はありませんが、《60歳以上》で“したい”の割合が7割強(73.5%)と他の年代の6割台に比べて高めです。

ローリングストックの認知度別にみると、“したい”の割合は、《知っている+聞いたことがある(“認知者”)》では8割を超えており(83.9%)、《知らない》(58.4%)を25ポイント以上上回っています。

5. 「ローリングストック」についての考えについて、あてはまるものは？

- ◆ 【1】備蓄品の食品ロスを減らすのに有効だ】“そう思う”(74.1%)
- ◆ 【2】非常食を買うより楽だ】“そう思う”(68.0%)
- ◆ 【3】知らない間に備蓄品の賞味(消費)期限を過ぎることを減らせる】“そう思う”(73.4%)
- ◆ 【4】災害時への備えに繋がる】“そう思う”(76.4%)
といった肯定的な考え方の項目は7割前後と高い
肯定的な考え方の項目では《女性》の方が“そう思う”と回答する割合がかなり高い傾向
- ◆ 【5】場所を取るので実践しにくい】“そう思う”(41.5%)
- ◆ 【6】何を備蓄してよいのかわからない】“そう思う”(47.1%)
- ◆ 【7】手間がかかるので実践しにくい】“そう思う”(30.4%)
など、否定的な考え方の項目では同意率は全体に低め

「ローリングストック」についての考えについて、あてはまるものを選んでもらいました。“そう思う(とても+やや)”の割合は、【1】備蓄品の食品ロスを減らすのに有効だ】(74.1%)、【2】非常食を買うより楽だ】(68.0%)、【3】知らない間に備蓄品の賞味(消費)期限を過ぎることを減らせる】(73.4%)、【4】災害時への備えに繋がる】(76.4%)となっており、肯定的な考え方の項目は7割前後の同意率と、「ローリングストック」を前向きに捉えている人が多いことがわかります。

否定的な考え方の項目では、【5】場所を取るので実践しにくい】(41.5%)、【6】何を備蓄してよいのかわからない】(47.1%)の2項目は“そう思う(とても+やや)”が4割台で、“そう思わない(あまり+まったく)”よりも多くなっており、この辺りが今後の課題だと考えられます。【7】手間がかかるので実践しにくい】は3割(30.4%)とやや低く、“そう思わない(あまり+まったく)”(31.2%)とほぼ同率となっています。

“そう思う(とても+やや)”の割合を性別でみると、1)~4)までの肯定的な考え方の項目では《女性》の方がかなり高い割合になっています。

IV. 過去の調査

当金庫では、2004年から「食」に関する調査を実施してきました。

本資料は今回の調査内容のダイジェストです。詳細につきましては、過去の調査報告書も含め、当金庫のホームページ (<https://www.nochubank.or.jp/efforts/research.html>) に掲載されていますので、ご参照ください。

これまでの食に関する調査

発表年月	調査タイトル	調査対象
2023年4月	訪日外国人からみた日本の「食」に関する調査	日本滞在経験のあるアメリカ・イギリス・フランス・中国・韓国の男女
2022年4月	第4回子どもの食生活の意識と実態調査	東京近郊の小学4年生～中学3年生
2021年4月	第4回『世代をつなぐ食』その実態と意識	東京近郊の30代から50代の母親
2020年4月	第3回現代の独身20代の食生活・食の安全への意識	東京近郊の20代の独身男女
2019年4月	昭和世代と平成世代の「食」習慣に関する調査	東京近郊の20代、40代、60代の男女
2018年5月	第3回現代の父親の食生活、意識と実態調査	東京近郊の30代、40代の父親
2017年5月	第3回現代高校生の食生活、意識と実態調査	東京近郊の高校生
2016年5月	第3回子どもの食生活の意識と実態調査	東京近郊の小学4年生～中学3年生
2015年4月	第3回『世代をつなぐ食』その実態と意識	東京近郊の30代から50代の母親
2014年4月	第2回現代の独身20代の食生活・食の安全への意識	東京近郊の20代の独身男女
2013年4月	第2回現代の父親の食生活、意識と実態調査	東京近郊の30代、40代の父親
2012年4月	第2回現代高校生の食生活、意識と実態調査	東京近郊の高校生
2011年6月	第2回子どもの食生活の意識と実態調査	東京近郊の小学4年生～中学3年生
2010年4月	第2回『世代をつなぐ食』その実態と意識	東京近郊の30～50代の母親
2008年3月	現代の独身20代の食生活・食の安全への意識	東京近郊の20代の独身男女
2007年3月	現代の父親の食生活、家族で育む『食』	東京近郊の30代、40代の父親
2006年3月	現代高校生の食生活、家族で育む『食』	東京近郊の高校生
2005年2月	親から継ぐ『食』、育てる『食』	小学校4年生～中学校3年生
2004年2月	『世代をつなぐ食』その実態と意識	子どもを持つ30～59歳の主婦

<本件に関するお問い合わせ先>

農林中央金庫

コーポレートデザイン部 ストラテジーグループ

広報コミュニケーション班：宮澤、藏方

〒100-8155 東京都千代田区大手町 1-2-1

Otemachi One タワー

TEL. 03-6362-7172